

キャラクター名  
按司 詠理[アジ エイリ]

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	UGN支部長C	カヴァー	支部長
	オルクス			年齢	23歳	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	経験		邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	8
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	8
精神	1	1	0			2	戦闘移動	13
社会	3	0	0			3	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
マジスティコート		3	-	-	青地のマント。st時、隣接している任意の味方全ての行動値+[3]

所持品	
ブラックカード	
リーダーズマーク	

合計装甲: 3    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
守護者[D]	P 遺志	N 悔悟		
按司 卯乃[アジ ウナイ][S]	P 執着	N 悔悟		
佐倉 陽向	P 庇護	N 隔意		
天木 詩音	P 連帯感	N 不安		
支部員	P 慈愛	N 不安		
清和 灯頼	P 庇護	N 隔意		
HYDRA	P 尽力	N 憤懣		

最大財産P: 8    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
マシンモーフィング	1	3	Xジャー	至近	自身	[意志]	-	
効果:	シーン中1回 アイテム作成 達成値+[LV*2]							
カスタマイズ	1	2	Xジャー	武器	-	[白兵][射撃]	-	
効果:	D+[LV]							
CR:モルフェウス	3	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	C-[LV](7)							
砂の結界	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	プロセス中1回 行動を消費せずカバーリング							
妖精の手	3	6	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	シナリオ中[LV]回 ダイスを1つ10にする							
奈落の法則	3	4	セツ	至近	範囲	自動	-	
効果:	シナリオ中[LV]回 自分以外の対象者のC値+1							
間隙の魔術師	2	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	シナリオ中[LV]回 対象が移動する際に好きな場所に移動させる							
万能器具	★	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	[RC] 日用品を何でも作り出せる							
機械の声	★	-	Xジャー	至近	-	自動	-	
効果:	[RC] 物体を自律行動させられる							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

UGNの某市支部長を任されている女性。伶俐な目鼻立ちで黒髪のロングヘア。高校生の頃から支部長業務を熟して、支部長としての責任感が強い。多彩かつ良質な武器・防具を作り出すことから、一部界限では鍛冶神[ヘパリストス]と呼ばれている。

任務では、その名高い兵装を自ら身に纏いながら前線で盾となって戦う。戦闘中は特に戦う力に欠けていない者を気にかけて、彼らが少しでも前に出る事を嫌う節がある。「前に出るのは私の仕事だ」「私は先頭で君たちを導く"灯"なのだからな」が戦時の彼女の口癖である。その何でも一人で背負い込む立ち振る舞いから、自らの価値に不安を持つ部下が多い。

(以下、ちょっとした裏設定。GMだけ見てください)  
5年前、任務中に弟の按司 卯乃[アジ ウナイ]を失っている。卯乃はお調子者のムードメーカーで、青地のマントを纏っては「この外套を背負って、俺が皆の街灯になる！……なんちゃって」と常日頃からお道化でいて、その姿が支部に勤める者たちの癒しであった。当時の詠理は、作り出す兵装を他人に分け与えて後方から指揮をする戦法を取っていて、前線の要は専ら卯乃が担っていた。しかし、任務中に敵方のFBIによる決死の自爆攻撃を一人で防ぐため、卯乃が犠牲となってしまった。卯乃の死体は敵の攻撃によってほぼ蒸発してしまったが、背中のマントだけは燃え尽きずにその場に残った。その日から、詠理は他人に兵装を与える事を拒むようになり、その背に青地のマントを羽織って前線で戦う"灯の守護者"となった。

同支部に勤めていた佐倉 陽向には多少の苦手意識があった。当時の自分と同じくらいの年で、妹を持つ支援役……、と自らのコンプレックスを強く刺激する存在だったからである。上や部下達の総意によって彼が他支部に飛ばされた時、心の端で僅かに安堵してしまった自分をとても恥じている。